



【手法】

地域新電力

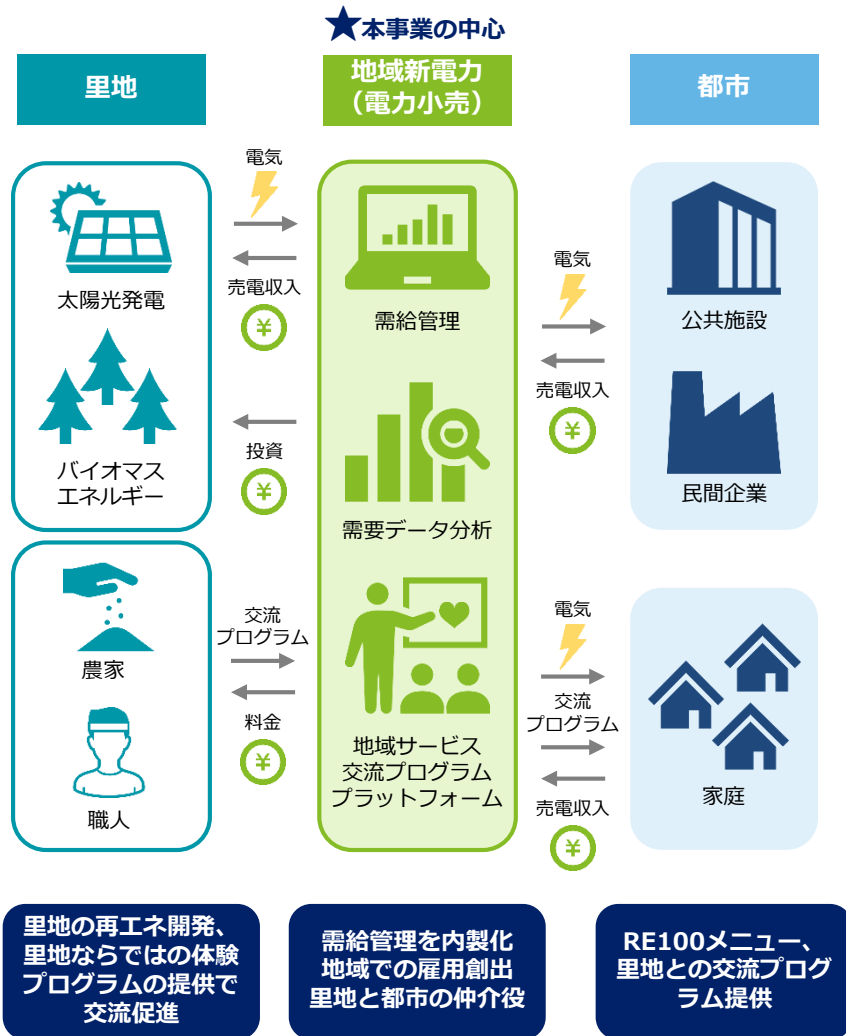
バイオマス

【目的】

再エネ拡大

里地・都市交流

1. 事業イメージ（目標年度：2030）



2. 事業概要

【目的】 地域新電力事業を通じ、里地と都市の再エネ地域連携を構築

【手段】 地域新電力が事業主体となり、里地の特徴に応じた再エネ・地域サービスを導入

【特徴】 里地と都市が連携し、エネルギーを通じて新たな経済循環と交流を創出

3. 事業効果（目標年度：2030、基準年度：2018）

【二酸化炭素排出削減効果】 11,212t-CO2/年（約3,200世帯分）

【再生可能エネルギーの発電量(電力)】 317MWh/年（72世帯分の電力）

【地域経済付加価値】 6,600万円/年

【地域課題の解決】 里地と都市の交流を通じて里山の新たな価値を実現し、両者の連携を通じて地域経済循環を活性化させることで、豊かな里山を維持する

4. 事業体制

能勢町・豊能町	【普及促進】 供給先の拡大、交流プログラム開発
吹田市	【普及促進】 供給先の拡大、普及啓発活動の実施
池田泉州銀行	【事業支援】 持続可能なビジネスの実現に向けた支援・助言
みやまパワーホールディングス イー・コンサル	【事業支援】 需給管理ノウハウの提供、交流プログラム開発支援

5. 事業スケジュール

2018	Step1. 2020	Step2. 2024	Step3. 2030
▲ 調査準備	▲ 電力供給開始	▲ 一般家庭へ供給先を拡大	▲ バイオマスエネルギーの活用
	■ 地域新電力を通じ、地域の公共施設や民間企業に電力を供給	■ 供給先を一般家庭に拡大 ■ 地域新電力による交流プログラムの提供	■ 収益を活用してバイオマスエネルギーを開発、里山整備にも活用



別紙

【手法】

地域新電力

バイオマス

【目的】

再エネ拡大

里山・都市交流

①自治体の基礎情報

【規模】

人口：能勢町+豊能町 30,418人 吹田市 370,583人（平成30年1月1日時点）

歳入・歳出：能勢町+豊能町 113億円 吹田市 1,243億円（平成30年度一般会計予算）

面積：能勢町+豊能町 133.09km² 吹田市 36.09km²（平成29年10月1日時点）

【立地】

能勢町・豊能町は大阪府北部に位置し、京都府・兵庫県とも隣接している里地であり生物多様性ランキングでも上位の自然豊かな地域である（能勢町：1位 豊能町：21位）。吹田市は大阪府北部に位置し、大阪市とも隣接する優良な住宅都市であり、能勢町とは2005年からフレンドシップ協定を締結し、継続的に交流がある。

【産業構造】

能勢町+豊能町の経済活動別構成比 ※市内総生産（名目）422億円（平成25年度）

公共サービス19.7%、製造業16.7%、公務11.2%、建設業10.1%、食料品8.0%、対事業所サービス7.5%、対個人サービス6.1%、その他20.7%

吹田市の経済活動別構成比 ※市内総生産（名目）9,210億円（平成25年度）

公共サービス16.5%、卸売業16.0%、住宅賃貸業8.9%、製造業8.7%、対事業所サービス8.3%、対個人サービス8.0%、その他33.6%

②各主体の参画理由

【能勢町、豊能町】

地域内での再エネ開発を進めるとともに、人口減少等により困難になる里地の維持管理に繋がる、都市との新たな連携モデルを構築し、地域で新たな経済循環を創出するため。

【吹田市】

都市部ではポテンシャルの限られる再エネ開発を里地で進めるとともに、文化面での交流を通じて市民生活の豊かさ向上を図るため。

【池田泉州銀行】

金融分野におけるノウハウを活かし、持続可能な地域新電力モデルの実現に向けた支援・助言を行うため。

【みやまパワーホールディングス、イー・コンサル】

電力・エネルギー分野や地域経済循環に関するノウハウを活かし、地域新電力としてのビジネスモデル構築に貢献するため。